

目 次

はじめに	iii
凡 例	vi
例言〔第四期の凡例〕	vii

第1章 生薬学

薬物解	3
石膏解	7
人参解	32
西洋参解	41
黄耆解	42
山茱萸解	52
白朮解	58
赭石〔代赭石〕解	60
山薬解	76
地黄解	82
甘草解	84
朱砂解	87
鴉胆子解	89
竜骨解	89
牡蛎解	92
石決明解	94
玄参解	94
当帰解	95
芍薬解	98
芍薬〔川芍〕解	101
大黄解	102
朴硝・硝石解	104
厚朴解	106
麻黄解	107
柴胡解	109
桂枝解	112
三七解	115
滑石解	117
牛膝解	119
遠志解	120
竜胆草解	120
半夏解	121
栝楼解	122
天花粉解	123
乾姜解	124
生姜解	129
附子・烏頭・天雄解	130
肉桂解	133
知母解	135
天門冬解	136
麦門冬解	137
黄連解	138
黄芩解	139

白茅根解	142	常山解	166
葶苈芦根解	143	山楂解	167
鮮小薊根解	144	石榴解	167
大麦芽解	145	竜眼肉解	169
茵陳解	147	柏子仁解	170
萊菔子解	148	大棗解	172
枸杞子解	148	胡桃解	173
海螵蛸・茜草解	150	五味子解	175
罌粟殼解	152	草薺解	176
竹筴解	153	鷄内金解	176
沙參解	154	穿山甲解	178
連翹解	154	蜈蚣解	179
川棟子解	156	水蛭解	181
薄荷解	156	蝎子解	182
茯苓・茯神解	157	蟬退解	183
木通解	160	羚羊角解	184
蒲黃解	161	血余炭解	184
三棱・莪朮解	163	指甲解	185
乳香・沒藥解	164		

第2章 医説医話

例言〔第五期の凡例〕	189
------------	-----

第五期第1巻

中医の理は多くが西医の理を包括し中西を溝通〔橋渡し〕 するは原より難事に非ずの論	193
人身神明詮	202
元氣詮	203
大氣詮	207
人身の君火・相火に先天・後天の分ありを論ず	215
腦氣筋辨	216
三焦考	219

少陽は游部たりの論	221
左伝〔春秋左氏傳〕盲上膏下の解および膏盲に在る病の 治法	223
人の膜原を問うに答える	224
泌尿道路を問うに答える	225
方寄齋が黄庭經の「後ろに幽闕あり、前に命門あり」を 問うに答える	228
劉希文が外腎と睾丸は何臟と密接な関係にあるかを問う に答える	229
人の胞室・子宮・気海・児枕を問うに答える	231
陳董馨が《内經》の十二經は有名無質と疑うに答える…	232
左肝右脾の解釈を論駁するものへの回答書	233
深研肝左脾右之理	235
續申左肝右脾之研究	239
医士はまさに静坐の功を用い、以て哲学を悟るべしの論	242
医学は宜しく《丹經》を参看すべしの論	245
哲学と医学の関係を論ず	248
第五期第2巻	252
石膏を生用するはまさに金丹に同じく、煨用するは即ち 鳩毒に同じの説	252
石膏の治病に南北を分けずの論	255
王隆驥君の石膏生用煨用の研究に答える	259
三七の特異な効能を論ず	265
羚羊角弁【附】羚羊角の代替方	269
甘露清毒飲	276
馬錢子は健胃のために薬を炒すことを論ず	277
竜骨は煨用すべからずの理を論ず	278
麩虫弁	279
鶏内金は女子乾血勞を治す要薬たりの論	280
洗髓丹中の軽粉、紅粉は性が猛烈すぎると疑う人に 答える	281
野苧菜根の霍乱に対する効の高思潜氏の書を読んで…	283
葵はよく瘡を治すと述べた廬育和氏の書簡を読んで …	285

冬葵子弁	288
赤石脂を煨いて用いるは疑うべしの論	290
《傷寒論》方中に用いられる赤小豆は穀中の小豆にして 相思子に非ずを弁ず	290
白虎湯中の粳米〔うるち米〕は糯米〔もちごめ〕を誤用 すべからずを論ず	292
麦奴・麦角弁	293
小茴香弁	294
用薬は病に勝つを主とし分量の多少には拘わらずの論	295
朱静恒が薬の三則を問うに答える	300
牛肉は紅荊に反するを目睹〔目の当たりに見る〕す	301
甘草は鯉魚とは反すの質疑	302
中西の薬はもとより宜しく相助くべしの理を論ず	304
西薬は尽くは中人に宜しからざるを論ず	306
季祝華の書〔書簡〕に復す	307
竹芷熙の書に復す	309
鱉甲〔土別甲〕・龜板は虚弱証に用いてはならないの論	310
草薢は失溺に対する要薬で淋には用うべからずを論ず	311
沙参は肺劳（癆）治療の要薬の論	312

第3章 書簡

第五期第8巻	317
陸普笙に書簡を致る	317
宗弟相臣に返信する	320
傅鶴皋に返信する	320
賓仙園に返信する	321
胡劍華に返信する	323
王肖舫が《内経》の注疏は何家が最も善書かを問うに返 信する	325
再び相臣の哲嗣毅武の書簡に答える	326
冉雪峰が医学堂を創建する規則を問うた書簡に答える	329
劉希憲の書簡に答える	330

宗弟相臣からの書簡	名は樹筠，直隸青県張家営出身…	331
相臣の哲嗣毅武からの書簡	名は燕杰 ……………	335
孫香蓀からの書簡	名を蕊榜といい直隸塩山にある趙毛陶の出身 ……………	339
馬秀三からの書簡	奉天の義県南関出身 ……………	344
蕭介青からの書簡	漢口太和橋屏藩裏出身 ……………	344
周禹錫からの書簡	名は榮珪，四川涇南出身 ……………	346
張讓軒からの書簡	直隸唐山老庄出身の人 ……………	349
席文介からの書簡	湖北当陽県の出身 ……………	351
章叙和からの書簡	名は洪均，安徽省績溪長安の出身…	352
蘆月譚からの書簡	名を保圻といい，山東徳州の出身…	355
董寿山からの書簡	名は仁清，滄県董程家林出身 ……	358
閻兆元からの書簡	名は国慶，奉天桓仁県の女子師範校長 ……………	362
楊鴻恩からの書簡	以前奉天医院で医学を学んだ奉天鉄峇出身者 ……………	362
万沢東からの書簡	名を沛霖といい，奉天〔遼寧省瀋陽の旧称〕の法庫出身者…………	364
賓仙園からの書簡	名は啓榮，江西柳州出身 ……………	368
田聘卿からの書簡	名毓珍奉天開原出身 ……………	369
張右長	湖南常德県神武巷出身 ……………	370
蔡維望からの書簡	江蘇省崇明県協平郷西新鎮の出身…	371
李品三からの書簡	名は金恒，直隸省滄県城東孫家庄子の出身 ……………	373
李曰綸からの書簡	名は恩綽，直隸省塩山花寨の出身	374
楊学忱からの書簡	名は綉章，天津北営門外曹家胡同5号に在住 ……………	377
刁継冲からの書簡	江蘇崇明県出身 ……………	378
高硯樵からの書簡	名は崇勛，烟台同善社 ……………	379
劉惠民からの書簡	山東沂水城西郷胡家庄の協済薬房…	380
趙利庭からの書簡	唐山啓新洋灰公司收發課 ……………	381
呉宏鼎からの書簡	安徽当陽護駕墩鎮 ……………	382
王錫光からの書簡	江蘇平台 ……………	383
仲曉秋からの書簡	柳河孤山子郵政局局長 ……………	384

高麗の安鳳軒からの書簡 高麗慶南統營郡光道面竹林裏 1276 番地	384
山西平陸県尹〔旧時の地方長官〕の彭子益が山西医学会 理事長に書簡を致った《衷中参西録》の内容	385
盛澤王鏡泉が紹興医報に登載し《衷中参西録》は医家必 読の書と論ず	386
虬湖の蘆逸軒が如皋〔江蘇省南通の地名〕医報に登載し、 第四期書薬物学講義を論じた内容	387

第4章 随筆

第八期 医話拾零〔こまごました資料の寄せ集め〕	391
診余随筆	391
胡萊菔英はよく砒石の毒を解す	400
麦苗はよく黄疸を治す	400
受業・高崇勲の質疑に答える	401
受業林世銘の質疑に答える	403
葛介人が相質する一則に答える 隠曲を論ず	405
汪景文の質疑に答える	407
柴徳新の疑問に答える	408
劉希文が七傷を問うに答える	409
胡劍華の疑問二則に答える	411
徐鈞英の疑問に答える	412
診余随筆	413
王肖舫の質疑に答える	414
沈仲圭が医を学ぶにはいかなる書を読むを要すべきかを 問うに答える	415
周小農が魚肚を問うに答える	417
汪景文の書簡への回答	418
金履陞が吐血後の咳嗽を治す法を問うに答える	418
呉自雄が病を問うに答える	419
高甘棠が病三則を問うに答える	419
王肖舫が小児の走馬牙疳を問うに答える	420

徐庄君が夫人の蕩漾病〔動揺病, めまい〕の治法を問う に答える	420
諸暨〔浙江省紹興の地名〕の孟興朕の疑問二則に答える	421
月影女士〔女性への敬称, 女史〕が疼経〔生理痛〕の治 法を問うに答える	422
劉希文が湿温治法の理由を問うに答える	422
王蘭遠が時方生化湯を問うに答える	423
陳士成が異証の治法を問うに答える	425
龐履廷が大便秘肛の治法を問うに答える	426
章恵和君が友に代わって病案の治法を問うに答える	426
章韶君が腹内動氣証の治法を問うに答える	427
仁伯和が蛇咬を治す法を問うに答える	428
仁伯和が頑癩を治す法および足底の痒みの治法を問うに 答える	428
仁伯和が喉証治法を問うに答える	429
黃雨岩が創傷および跌打損傷の外敷〔外用〕内服の止疼 化瘀方を問うに答える	429
胡劍華が抜漏管方を問うに答える	429
蕭介青の書簡に答える	430
第一集 三三医書評	431
《温熱逢源》第一種評	431
《医事啓源》第二種評	431
《医経秘旨》第三種評	432
《医病簡要》第四種評	432
《医階弁症》第五種評	433
《喉科秘訣》第六種評	433
《癩科全書》第七種評	433
《時行伏陰芻言》第八種評	434
《村居救急方》第九種評	434
《驅壺燃犀録》第十種評	434
《外科方外奇方》第十一種評	435
《咳論経旨》第十二種評	436
《臨証経験舌法》第十三種評	436
《沈氏経験方》第十四種評	436

《痧疫指迷》第十五種評	437
《靈蘭要覽》第十六種評	437
《凌臨靈方》第十七種評	437
《推篷悟話》第十八種評	438
《旧徳堂医案》第十九種評	438
《内經弁言》第二十種評	438
《診脈三十二弁》第二十一種評	439
《專治麻疹初編》第二十二種評	439
《産科心法》第二十三種評	440
《本草衍句》第二十四種評	440
《先哲医話》第二十五種評	440
《陳氏幼科秘訣》第二十六種評	441
《秋瘧指南》第二十七種評	441
《備急灸法》第二十八種評	441
《医源》第二十九種評	442
《馬培之医案》第三十種評	442
《本事方集》第三十一種評	442
《曹仁伯医案》第三十二種評	443
《南医別鑑》第三十三種評	443
第八期 臨証隨筆	444
治癒筆記	455
臨証隨筆	456
方劑索引	457
用語索引	461
あとがき	465